

SR-S724TC1 V12.03 変更内容一覧

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V12.01～V12.02	IPv6リダイレクト経路のエントリ数が最大値を超過した際に出力されるシステムログメッセージ中の無効状態になったリダイレクト経路の送信元IPv6アドレスが正しく表示されない。 ※メッセージ例: "ICMP6 redirect rejected. Redirect route overflow.(route=<route> target=<next_hop> src=<address>)"の<address>部分が正しく表示されない
2	V11.00～V12.02	IPv6アドレス(リンクローカルアドレス)の重複アドレス(DAD)事象を検出すると、それ以降、グローバルアドレスに対するNS送信にNA応答してしまう。
3	V11.00～V12.02	受信RAのPrefix情報が、Prefix長=96でon-link指定時に、on-linkと見なして通信を行わない(経路に依存した通信を行ってしまう)。
4	V10.01～V12.02	本装置再起動後にリンクアグリゲーション(LACP)接続ができず、通信可能な状態とならない場合がある。
5	V10.01～V12.02	clear bridgeコマンドをポート指定にて実行する際、コマンドに指定していないポートの学習エントリも削除される場合がある。
6	V10.01～V12.02	10Gbpsポートを2ポート以上でLACPモードにてリンクアグリゲーションとして構成した場合、STPのパスコストが不正な値(200.000)となる。
7	V12.00～V12.02	LLDP機能を無効から有効にすると操作を実行するとメモリリークが発生する場合がある。さらにこのLLDP機能を有効にする一連の操作を数万回以上実行すると、コマンドが投入できなくなったり、ネットワーク監視装置からの監視が出来なくなることがある。
8	V10.01～V12.02	ユーザ定義プロトコル条件にて802.3SNAP形式フレームをプロトコルVLANとして設定した場合、SNAP OUIの値が"0x000000"以外のフレームがプロトコルVLANとして識別されない。 一例として、AppletalkのZIP/NBPフレームは、802.3SNAP形式フレームの0x809bとして設定した場合でも、プロトコルVLANとして識別されず通信ができない。
9	V12.02	コマンドによるARPエントリの削除や追加実行後、自装置発の通信が発生するとシステムダウンする場合がある
10	V10.01～V12.02	ユーザ定義プロトコル条件にて設定されたプロトコルVLANを、定義番号指定ですべて削除しても、そのVLANがポートVLANとして正しく設定されない。
11	V12.02	clear arpまたは、clear ndpコマンド実行後、ゲートウェイ経由となる特定のホストに対する通信が、ハードウェア転送されずにソフトウェア転送状態が継続される場合がある。
12	V12.02	ECMP経路が登録された状態で、clear arpコマンドにより、ゲートウェイのARPエントリを削除した場合にECMP経路の特定の通信パスが不通になる場合がある。
13	V12.00～V12.02	show ip multicast route kernel detailコマンド実行時、システムダウンする場合がある。